

2020 年度

事業種別	広域安全事業
団体名	一般財団法人青少年問題研究会
事業名	季刊誌『青少年問題』の刊行
<p>当財団は、公益財団法人 日工組社会安全研究財団の助成により、季刊誌『青少年問題』第 679 号(第 67 巻夏季号、2020 年 7 月)、第 680 号(第 67 巻秋季号、2020 年 10 月)、第 681 号(第 68 巻新年号、2021 年 1 月)の編集・発行事業を行った。</p> <p>第 679 号の巻頭論文は内山絢子「令和時代の子どもの問題行動」、特集は「ネット・スマホ時代の子どもたちの非行と被害防止の方策」として、竹内和雄、石川千明、岡田好史、岡嶋美佐子の4本の論文を掲載した。</p> <p>第 680 号の巻頭論文は渡邊正樹「我が国における安全教育の方向性」、特集は「青少年に対する防犯教育の促進とその支援策」として、齊藤知範、荒井崇史、松川杏寧、木宮敬信の4本の論文を掲載した。</p> <p>また、679 号、680 号では「現場から見た青少年問題」等を掲載した。</p> <p>第 681 号の巻頭論文は、矢島正見「青少年と青少年問題に関しての若干の雑考」。最終号のためページ数を拡大し、第1特集と第2特集の二部構成とした。</p> <p>第1特集「青少年問題論考一『青少年問題』67年間の総括として」は、岩井宜子、樋田大二郎、岡本吉生、原田豊、小林寿一、山本功、渡邊一弘の7本の論文を掲載し、第2特集「『青少年問題』を超えて—また逢う日まで」は、上田光明、岡邊健、作田誠一郎、廣末登、相良翔の5本の論文を掲載した。</p> <p>第 681 号の発行をもって『青少年問題』は廃刊となったが、毎号豪華執筆者をそろえ、わかりやすく、かつ内容が濃いことが季刊誌『青少年問題』の誇りであった。</p>	
	

注)上記の報告書は、助成対象団体が作成した報告書です。(公財)日工組社会安全研究財団では、記載された事業の内容等に関するお問合せには対応できませんのでご了承ください。